KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

中村俊定文庫
文庫 18
902

置山法印是修験地行法ゆ
へ業中一切事まてもて人
天徳に志ひぬ和尚の
深あり時に和漢の文を学ひ
詩蓮歌のわ七五を捨ひぬひ
しに去年秋小春中の日
物の風に世を捨ぬ

云てみ首を無きれてもみ
嗚呼さても悲しかなしも
為し事の夢なくこのふ
こゝひ給ふなしとも長なかの
秘め情まるへんのこゝろ深く
も思ひはこのつ達ることもに
袖取ありぬ中ヶ月り侍るへ

先侍ぬるころ聞えし一周忌と
承及み寔に申之上乃雨次子
千法莚乃きまもの恩沢乃遣候子
何ゝ御修一頓乃御供有拝合
追福乃不可叶之発侍こん
も侍とし以さとのゝもろふ
まことに添風ゆふへ津翁海

みちをんてはけ出してて
云てせるるよりの事の
又出悼乃方
書之屋なかけてる事ふる

七十三歳
松尾芭蕉翁

賀之

辞世

雪降おるへハ咲そ乃山
去年ハ花を志のふ世世
印籠の蝙蝠乃花を拝のけて
おるへとよるぬ人ハ訪ひ来
去年ハ乃新たり春の春哉
四こと〳〵ま自ら焼帛

曽山佛

南明
一止
南巡
南辰
柳志

中村俊定文庫

古れこ路ハちりなま濡れて袖枝　浦趣

居残さまて初るぬ藤生ゐる　玄仙

蚕かふ比ハ戯なれしも移りしき　丹峯

昼比中うつりの雲ノ代ゞ　如松

寺萱清ゆる隣り尓なる婦以　呉周

さうざくし見えぬ夜くの吸売　靖高

生菰が席り八月を敷こまて　白氷

忙しき水鶏乃音くきゝけん　文兮

袮宜済し之輪の社はあつかしき　松陽

書き通りて甲のぬ兰頃　子元

鶉日りみもよしぬ菊乃咲　佐竹

鵜なれはしき蓋る餝市　梅成

迷ひ中うつ持まうもる蕉蘇　明

夜居はたに国あらしくち　止

うん簟をよりて緬のけてなる之　巴

日南に浮綿而へ蛇丁流　明

待時を以つて為すべし所為
為すべき新案を乃ち
年新稿を以て如之に
持つて是を行ふ
巻を新作表出せ
掘を抜きて抽ずべし
案門乃ち存ずべし
ずして其れ以て新
止
思
乃
止
思
乃
止
思
乃
止
思

衆世経一布目を家中
さらに稀色を無ければ
供船をのそたる人情士の
風ようさきし行乃常
ちるを流石秘密なること
を如しまも異そもおき
乃
止
思
乃
止
思

折芳を松葉きく霞の匂ひかな　蜀山

春風やよくとゞまる遅桜　存笑

鶯の啼くきあハせる言を茂て　東嶺

拾ふこゝろもあらぬお情出けり　山

春雨に水流るきし入くれの夕　嚴

一すぢ引よゝ初ト次　笑

戦と吹春よもうゝふかたの売　山

嘘よりおゝ川のまてあるゝ　笑

唐崎ゝ色ゝを分を新れて　嚴

見数量たれもなまし　山

仮初色ゝ紫きひの丁寧を　笑

又泥棒ゝ流れのふえ数物の味　嚴

東ゝよ入江涼しく釣る舟　山

かのこのよきあハ魚の言　嚴

大津絵よ云ハ世のきゝ門義肥　嶺

碓氷の関ハ春ハ霞よ初まる　山

ちらゝゆらゝと落も咲くつ霞哉　峯

きゝ伝の春こゝろこゝろよすゝ　嶺

置山ゆゝ北浜屋よりしゝ絵ゝを使
ぬゝ伝ゝ情ひこの年中去年ゝ世しゝ人ゝ
ゝ家ゝ浦ゝ内ゝ内ゝ一月ゝ法ゝ法
楚よゝ浦ゝ内ゝ内ゝ後ゝ内ゝ哉
南明よたゝくゝして

俳諧たゝ俳や枯野ゝ世ゝ哉ゝ　内嶺

知ゝ知ゝ法楚よ隣ゝ隣ゝ世の世を
ちゝ浦ゝ浦ゝ浦ゝ岸ゝ岸ゝ
歌ゝくのゝ

世ゝ之ゝ宗一筋や　南明

置山法印一周忌の法莚千法
あり清浄の香華を手向ける

去年はあふぐ人はかりを一の杯　南無

香月書肯を唱ふ

しるべやたをを樊をくゆる人　存家
水仙や花は仏も気と周り　古仙
猪は人を食ふ中の月　如松
はるの山雲の客をたつる月　潘玄

跡しはらく花は水ぬるるなかり　潘超
そそしはかなく世ふ神乃ふ　真秀

小祥忌拾句

ちかなしやはをふかぬる秋　七十三翁　白水

同

きく菊やとくしも匂ふ秋　七十三翁　一止

ゆく湯ひしるゝもさそふ茶まる　江戸 為山

明屋敷や春ハ梅の中ま入　尺介

身旅ひとつ田も見ぬ春たり初子昔日　新甫

春の夜ハ雲ともむらの影のり月星　之瓦

草の晴ふく座訴えり枝生柳　芳州

相の実もとまらぬふく霰の軍　跡雨

ゆかれぬも見えし夢をゆひさるか　也休

鶯乃鳴ものまさる一枝の梅　きく成

たくみなき庭や呉竹の楓　望井

涼川ましら乃声や傾く夜の灾　巷湖

旅ふ行き縁の門ま摘の菜　氷壺

鶴ハ月の後乃影の月を鳥　笥裁

菜の花の真の乃長き室ニの形　スカ川 ゑよ女

うかと歩行けふくれも春の人　清民

初雪や積ふハ梅ふ乃根のうへ　モカミ 重英

一[illegible]の[illegible]汲よ吉野[illegible]の春　之英
[illegible]乃ふえ[illegible]ふれつゝ花もち　宝星
桃竹[illegible]ぬてもなし[illegible]牧　秀耳
[illegible]ゝ[illegible]花[illegible]　花乙（イワキ）
松人[illegible]ゝ結ふ[illegible]乃風　以来
[illegible]と[illegible]もや[illegible]　左佑
[illegible]泉やあちきあ[illegible]世[illegible]の[illegible]　雅狗
川原ひや山吹[illegible]ゝ[illegible]ゝ　而吗（おる）

[illegible]ゝあの[illegible]叫よさ[illegible]や初時雨　柳志（ヤノメ）
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　泳柳（ツキノホ）
[illegible]ゝと[illegible]る水も[illegible]ゝ[illegible]ゝ柳　柳成（ルシ）
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]も山と[illegible]ゝ柳の[illegible]　竹（ワタリ）
麦[illegible]や[illegible]ゝ[illegible]ハ[illegible]の[illegible]ゝ　江之
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]や[illegible]ゝ[illegible]　宗古
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　杉芽

[illegible]の一系この中
[illegible]行の水[illegible]の友　泉渓
[illegible]は[illegible]秋[illegible]夢　赤山
[illegible]の[illegible]　女人
[illegible]　太年
[illegible]　蘭城
[illegible]海[illegible]山　毛江
[illegible]水や[illegible]水[illegible]　文子

[illegible]秋[illegible]　秀皐
[illegible]秋千[illegible]　文雅
[illegible]の[illegible]　素圭
[illegible]の[illegible]　西水
[illegible]の[illegible]　椿堂
[illegible]　竹々
[illegible]の[illegible]　郭露
[illegible]の[illegible]　一生

[illegible]　子山
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　玉芝

[illegible]　吳用（ヨシタ）
[illegible]　子允（マシタ）
[illegible]　一哉

[illegible]　李兮
[illegible]　梅園
[illegible]　一[illegible]
[illegible]　子柳
[illegible]　柳水
[illegible]　[illegible]
[illegible]　松央
[illegible]　葉花

[illegible]風よ起り枯尾花
あれ一つこのけてきき樓さうの
屋新をあなる吉ゆ〳〵ふるとぶ
風よ毎日ものもかなる雲かの郷
庭掃ハむ〳〵ぬきんあれ小まぶ
併ぬきすや雲我乃とりもえ
帝宮ゆ〳〵越世〳〵りの庵ぬ新
是乃ゆ山的ゆ遠〳〵蓬萊ぶ

柳生 葉久
方々 居幸
本川
六川
冠哉
四帝花 白二
多柳 柳村
、 面岩

あり〳〵と懐ぬ言ぬ中枯尾花
ゆ言ぬ時中やゆゆれ月言風新
地ぬ力稼ゆ水柏やゆ月ゆ
雲ぬ我やはんのゆ蓬ゆ仮墓

杉之帝 秀雅
ユリ上 照明
マシタ 結面
、 松仙

打絵墓参

[illegible]月〳〵雲成人上ゆ雲ゆ郷

南時

曇山法印新墓系　一　止

山庵し池乃深美やそうつ附ゐ
帝云新袖の志と系塚　そん　面明
雑蔵、置ふ義和を指景く
義よさつれハ鏑　鎧　新和　止
身ゐ、まく雪色きぬ落明
岩よて山孫新系　大ゐる　明

行夢ひ後とく行ふて手海
捷ゐうゐ、今数ゐ明　止
岩らしくえ申る姿も色と重
供行ゐき　寺新下る之　明
ゐゐ、朱ゐるゐれる幕ゐく
大谷庵り山新ゐつき　止
ゐ海ゐ、新菜東ゐる写色
月志ろゐよ　雪　ゐつく　明

然るかゝ画を古刹まゝ多き
老樹屈しく殘るこはそし
小うるハ急角よもも地ゝこのゝ
赤角よ庭てゝ孔多ゝ
蒙をく深り出しゝ孔後の外
楚ゝ鉛く赤俗孔色ゝ
孔ハさゝ孔庭をり巻て
うき色ゝ孔しゝよ和しゝ朱

止、乃、止、乃、

り之よ和賣孔孔孔系の日
種孔渡しゝ孔ハさゝ
國ゝ多もつゝ孔ぬ毛力
孔造ゝ之ゝ孔上孔結
吹巳しゝ孔の中ゝ孔赤孔紫
燒ゝ中ゝ之ゝ孔さて石磬
かしゝ孔孔をしゝ孔孔孔
孔井巳を入くてもあき

止、乃、止、乃、

未拙くとも書きくとく時鳥
横山へ来て初音を梅さん　止
篇数を割とう性より宮
日数伸さのもの高の家未時已　明
毛数隠見を数をうるをて
わの乳数厚乃宮をこん迄乳　上

枕冬
一事菴南巡